

# 経済 TOPICS

No. 251

(2026年1月22日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費と輸出が横這い圏内の動きとなっているなか、生産が底堅く推移しているほか、設備投資が高水準を維持していることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は、前月と同水準となった。この間、長引く食料を中心とする消費者物価の上昇や日中関係の冷え込みなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 個人消費の鈍化と労働市場の軟化傾向が続いているものの、生産が横這いの動きを続け、設備投資が大幅な増勢を続けていることから、全体としては底堅く推移している。消費者物価(総合)の前年比プラス幅は、横這いの動きとなっている。

### （参考）日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の前年比プラス幅が横這いだったことなどから、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は前月と同水準となった。この間、輸入物価(飲食料品・食料用農水産物)は、契約通貨ベースでは鎮静化しているものの、円ベースでは円安の影響もあり上昇に転じている。

〈米国〉 粘着質なサービス価格の上昇が続いていることから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅は横這いの動きとなっている。



京都フィナンシャルグループ  
京都総研コンサルティング